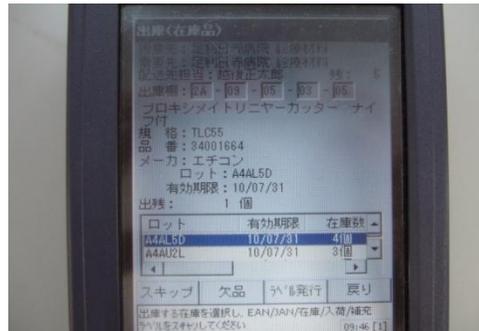


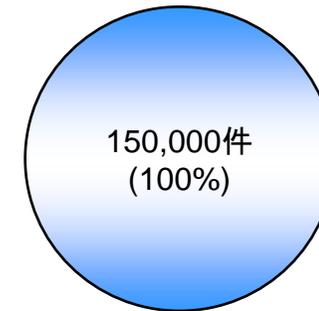
### ③出庫確認の活用

出荷 : ロット別の出庫指示

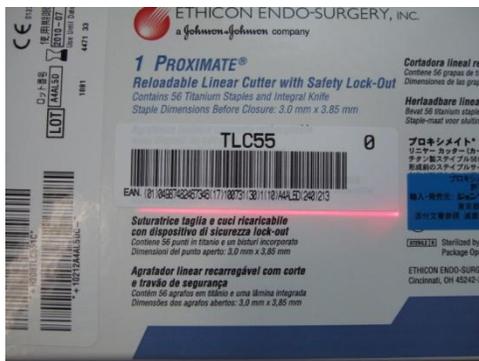
物流センター出庫処理でのバーコード利用件数(1ヶ月)



・ロット別に出庫指示がされる



・出荷時の商品特定(出庫ミスへの対応)はコードがある商品については100%実施。それ以外の商品は目視で実施。



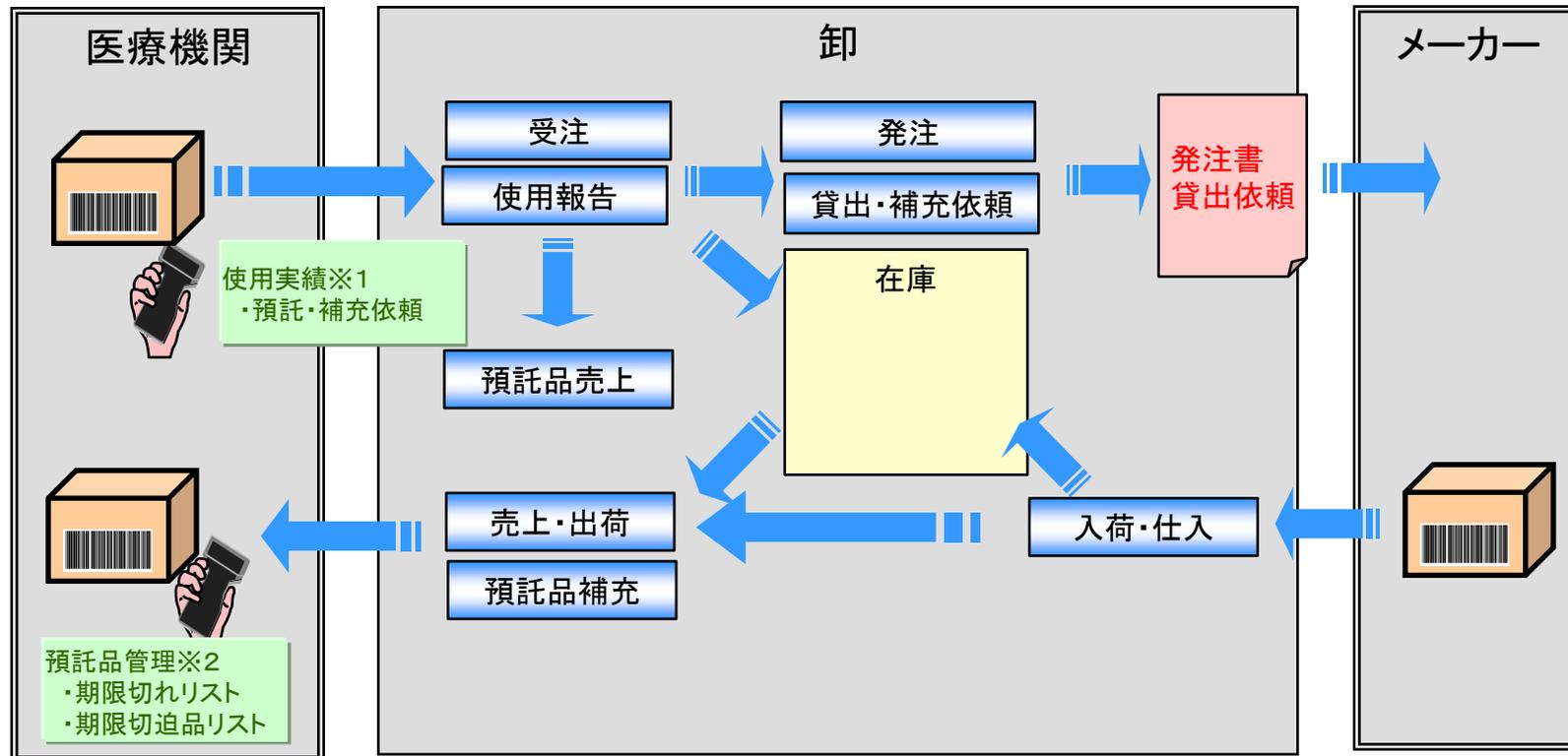
・ピッキングした商品のバーコードを読み取り、商品の誤出荷や使用期限切迫品の出庫を防ぐ

有効期限管理としては、GS1コード<sup>®</sup>添付商品は直接読み込んで、その商品の有効期限を確認し出荷。

しかし、JANコードのみ、更にはコードが無い商品については、目視での確認を徹底。このことは作業上非常に負担となっているのが現状です。

## 預託材料への活用

預託在庫 : バルコードで在庫管理

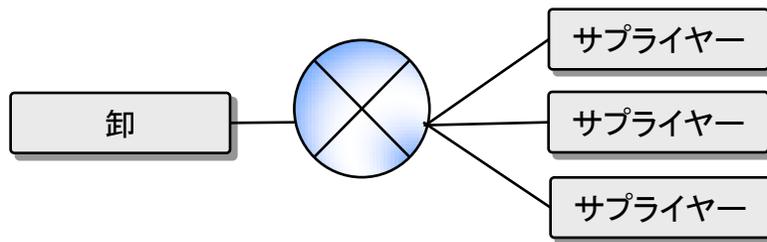


※1 預託補充や売上への連動

※2 預託在庫のバーコードを読み取り、在庫数量や使用期限のチェック

## サプライヤー間とのVANEDI接続

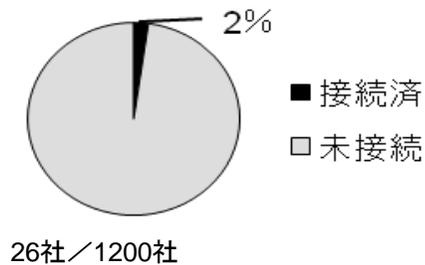
### VANサービスの活用



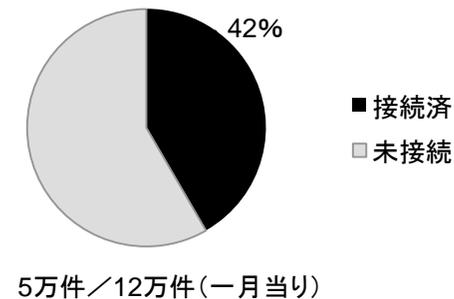
### VANを活用するデータの種類

- ・発注データ(卸→サプライヤー)
- ・仕切データ(サプライヤー→卸)
- ・納品実績データ(卸→サプライヤー)

### 接続先件数



### 仕入件数



コード化の効率化としてEDI化が上げられ、当社も積極的に進めているが実際には全体の2%にとどまっているのが実態である。しかし、接続しているメーカーとの効率化は非常に高く、より展開する予定ではあるが、現時点では全体効率化というところまで進んでいるとはいえない

## 当社における医療機器のコード活用のまとめ

1. 医療機器のコード化のカバー率が進んできたことで、コードを活用した社内業務管理体制も同時に進んできた。しかし、100%には達成していないことが課題であると考えています。自社ラベルの使用なども行っているが、メーカーのコード添付がより多くなることが流通の効率化に必要である。
2. EDI接続はコードを活用した効率化の最大のものであると思うが、現状では全体の2%程度にとどまっている。これは医療機器・材料業界情報化協議会(@MD-Net)への製造業者、販売業者共に加入率の低さが原因の一つと考えられる。